

鶴見川再生

鶴見川流域は、1960年代以降の急激な市街地開発によって大いに活性化した反面、治水・環境・防災等のさまざまな問題を抱えることになった。このような状況においては従来の河川整備の考え方のみでは治水安全度を確保できない事態となったことから、流域全体で解決するため、学識経験者、流域自治体、河川管理者からなる委員会を設置し、河川整備と流域における治水対策とを一体的に進める取り組みに着手した。これはわが国の総合治水対策の先駆けの一つであり、具体的には、流域対策だけでなく、流域自治体の都市計画や開発行為の段階から、流域において雨水の流出抑制策など流域対策に取り組みということである。

◆ 再生のポイント

- 鶴見川流域水マスタープラン
(洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、震災・火災時マネジメント、水辺のふれあいマネジメント)
- 水質改善

◆ 鶴見川概要

源流は東京都町田市、河口は横浜市鶴見区の東京湾。町田市、横浜市青葉区、緑区、都筑区、港北区、鶴見区、川崎市幸区を流れる全長 42.5km、流域面積 235km² の一級河川。

1960年代以降の急激な市街地開発によって活性化した反面、治水・環境・防災等のさまざまな問題を抱えた。鶴見川流域では流域の自治体や住民とともに、雨水の流出抑制などを含めた水循環の健全化に向けて、その総合的な指針となる「鶴見川流域水マスタープラン」の策定に着手している。



◆ 再生のために実施した事業

鶴見川流域水マスタープランでは、以下のような施策を行っている。

【洪水時水マネジメント】

洪水の危険から鶴見川流域を守り、異常な豪雨による都市の浸水被害を軽減するために、流域と一体となった治水対策に取り組んでいる。

【平常時水マネジメント】

平常時水マネジメントでは、豊かな流れの確保、平常時の水質改善、雨天時の水質改善、節水型社会への転換が図られている。

【自然環境マネジメント】

流域のランドスケープの骨格構造を都市自然環境として保全・回復という観点から、谷戸や尾根の緑地、沿川農地などの自然環境基盤を骨格となる河川と線によってつなぎ、生態系のネットワークを形成するとともに、市街地に水辺等のビオトープを配置することによって、流域全体の生物多様性の保全を推進している。

【震災・火災時マネジメント】

現状の地域防災計画への河川の位置付けを推進するとともに、鶴見川の水、空間を水利、避難等に最大限活用し、まちとの連携による流域全体の防災機能の向上を図っている。

【水辺のふれあいマネジメント】

河川利用と自然環境保全との利用調整のルールづくりを進めるとともに、さまざまな主体による管理運営の仕組みをつくり、流域を意識したライフスタイルを普及、啓発し、促進を図る。

【水質改善】

下水道整備などにより改善はしてきたものの、水生生物の生息・繁殖や、ふれあえる水辺の創出のためには、新たな水質改善目標を設定し、さらなる水質改善を図る必要がある。

市街化の推移

自然地

市街地

